



經典餘師

書經

四

口 11  
2047  
21





門 22  
2047  
卷 21



周書

泰誓上

惟十有三年春大  
會于孟津于會于王  
の曰嗟我友邦冢  
君越我御事庶  
士明之誓と聽

惟天地萬物父  
母惟人萬物之  
靈亶聰明元后

經曲餘師

周書

周の文王の国号後了武王  
因りて天下と有の号と為

泰誓上

天下の万民に殷を討て天下  
の諸侯は周の徳に歸服し

周と天子とを以て誓とふ

惟十有三年春大會于孟津王曰嗟

我友邦冢君越我御事庶士明聽誓

右諸侯と誓するに王の即位十三年の歳のこと  
あり孟津の地に諸侯との會合ありこの時

武王の友は嗟とて友とらるる邦の冢君あり  
我が家の事と御ののりらと庶乃庶士列

朕が誓の詞と聽まひるべし  
○惟天

地萬物父母惟人萬物之靈亶聰明

書經卷之四







乃夷居上帝神祇車弗厥先宗廟遺祀弗犧牲粢盛凶盜于既乃曰吾民有命有且其侮

天下民与佑之君之作之師之作惟其克上帝相与四方有寵綏

考の心志とつゝ友邦家君と世の政治と觀よ  
紂王忠臣と悛の心とこゝもふりり

乃夷居弗事上帝神祇遺厥先宗廟  
弗祀犧牲粢盛既于凶盜乃曰吾有  
民有命罔懲其侮

○天佑下民作之君作之師  
惟其克相上帝寵綏四方有罪無罪

罪有罪無予曷敢取厥志越有んや

力と同ふとれを徳と度徳と同ふとれ義と度受臣億萬有惟億萬の心予臣三千有惟一

予曷敢有越厥志

天の世とつゝ下の方民と佑め

○同力度徳  
有臣三千惟一

同徳度義受有臣億萬惟億萬心予

の義とつゝ達や否とつゝ度とつゝとれは兩方の甲  
紂王たつゝ臣下軍兵億萬りり君臣の心とつゝ



商の罪貫盈天命

商の罪貫盈天命。誅之予弗順天厥罪。

予天順弗厥罪

予天順弗厥罪。惟鈞予小子夙

惟鈞予小子夙

惟鈞予小子夙夜祗懼受命文考類

文考受上帝于

于上帝宜于冢土以爾有衆底天之

類冢土于宜

罰。貫於民。紂王の亡んて、紂王の

爾有衆と以て天之

天より命トテ誅シ、予天の命トテ

罰と底

天の罪トテ、紂王の神靈ト受命ト

天民于矜民之

天矜于民民之

欲する所天必

所欲天必從之爾尚弼予一人求清

之從爾尚

四海時哉弗可失

予一人と弼

惟戊午王河朝于

永く四海と清せ

王乃徇師而誓曰

よ時なる哉失ふ

鳴呼西土有衆咸

ふ可く弗

聽朕言

泰誓中

泰誓中

惟戊午王河朝于

惟戊午王次于河朝羣后以師畢會

次畢羣后師

王乃徇師而誓曰

以て畢く會す王

聽朕言

而誓て曰く嗚呼

會合し、衆師を法と爲し、誓言を

西土の有衆咸朕

會合し、衆師を法と爲し、誓言を

が言と聽

會合し、衆師を法と爲し、誓言を

經由、余市

經由、余市



我聞吉人善惟日不足凶人不善亦惟日不足今商王受度無力行無度播棄老聩比罪人淫酗肆虐臣下化之家朋作仇讐權相滅無辜額天穢德彰聞

我聞吉人善惟日不足凶人不善亦惟日不足今商王受度無力行無度播棄老聩比罪人淫酗肆虐臣下化之家朋作仇讐權相滅無辜額天穢德彰聞

惟天民之惠惟辟天有夏桀弗克若天流毒天下國成湯降黜夏命

惟受罪桀于浮元良剝喪諫輔賊虐謂己天命有謂敬行

經典餘帛

惟天民之惠惟辟天有夏桀弗克若天流毒天下國成湯降黜夏命

○惟天惠

惟受罪桀于浮元良剝喪諫輔賊虐謂己天命有謂敬行

經典餘帛

五



不謂祭益無謂謂  
暴傷也無謂謂  
監之惟遠之不  
彼夏王在天其  
予之以民之義  
予之朕之夢朕  
ト又協休祥于龔  
ぬ商又我必不  
克ん

受億兆夷人有  
心離德予亂  
臣十人有心同  
不德同予  
周親有雖仁人  
不如不

天の視自我民の  
視自我民の  
聽自我民の  
予一人は在  
今朕

祭典食部

書經卷之四

五

謂暴無傷。鑿惟不遠在彼夏王天  
其以予又民朕夢協朕卜龔于休祥  
戎商必克  
の桀王の浮き元良と剥喪ふいひい忠臣の  
諫輔ののと賊虐己を天より命ト天子の  
り大言し身と敬行り不足といひ神明と祭  
る益なきこといひ民と暴ふいひ傷りいひ  
びといひ少もおそむつていひい己より夏  
の桀王のゆるびい監も遠よりいひい  
ちや万民をさし文考と天子いふさんと孫が  
るれ天より予又万民とすいひいんと思ひめす  
りや天より朕より命トいひい霊夢といひい  
うト益とさるると又霊夢といひい高より我  
たい悪人より克るるい龔い世乃休祥  
たりんとありい必とさるるといひい思ひ

受有億兆夷人離心離德予有亂臣  
十人同心同德雖有周親不如仁人  
天視自我民視天聽自我民聽百姓  
有過在予一人今朕必往  
ふ心徳一同いさうなり紂王の惡逆うくる周親  
の軍勢多しと益うくる予とさるると十人あり  
といひ仁徳より天下屈服とさるるといひ  
いえより我り不如ことありい

祭典食部

書經卷之四

五







我西土の君子天  
顯道有厥類惟  
彰今商王  
受五常と狎侮  
荒怠して敬せ不  
自絶于天于絶て  
怨と民于結

朝は涉之脛と前  
賢人之心を割威  
と作て殺戮し回  
海と毒痛す姦回  
と崇信し師保と  
放黜す典刑と屏  
棄し正士と囚奴

廟享せ不奇技淫  
巧と作て以て婦  
人と悦む上帝  
順が弗祝て時喪  
と降す爾其致致  
とて予一人  
奉て恭て天の罰  
と行はん

古人言と有曰く  
我と撫すまば則  
ち后我と虐すれ

經典餘而

惟彰今商王受狎侮五常荒怠弗敬

自絶于天結怨于民

見たりる衆土卒り誓ひいふ日や我西土乃諸  
君子の面々うけりてを天より人道の願ふ  
教とありて人々の類五ありて彰今紂王惡逆  
より父子君臣兄弟夫婦長幼の五の常と狎侮  
絶る政事の重と荒怠する天の神明と己り  
絶る怨と民と結ひて日々惡逆する長

○斲朝涉之脛割賢人之心作威

殺戮毒痛四海崇信姦回放黜師保

屏棄典刑囚奴正士郊社不修宗廟

不享作奇技淫巧以悦婦人上帝弗

順祝降時喪爾其致致奉予一人恭

行天罰

斲の朝水涉のの脛と賢人の心と  
割る賢人の心を割る賢人の心と  
殺戮を四海に毒を及ぼす人々を痛め姦  
回と崇信し師保と放黜す國家の典刑と屏棄  
法正しと士と囚奴郊社の祀と不修する宗廟と享と  
巧と作て以て婦人と悦む上帝

天上帝弗順  
代と祝降めし時喪  
天下の悪人とかりば民とすらく天の意とけ  
るやいふのあり再の人の致致予が命を

○古人有言曰撫我

則后虐我則讐獨夫受洪惟作威乃

經典餘而



則ら雙言獨夫受洪  
ひは惟威と作乃  
ら汝の世雙言德  
と樹る滋うん  
とと務惡と除本  
と務肆予小子  
誕爾衆士と以  
て乃の讐と珍殲  
す爾衆士其尚  
ハ果毅と通で以  
て乃の辟を登功  
多ハ厚賞有ん  
迪不ハ顯戮有ん

汝世讐樹德務滋除惡務本肆予小  
子誕以爾衆士殄殲乃讐爾衆士其  
尚迪果毅以登乃辟功多有厚賞不  
迪有顯戮  
天乃民と惠る人后と天乃代  
たまふるも民乃父母と古人の言り民の  
とさけられれと撫うるも父母の思ひ  
后とててくも虐まされくも  
民と讐言をたふし今紂王乃ハ方民見  
てふハ獨夫あり洪り威をふる民の爲  
世乃雙言あり君とある身の務ハ人の滋やうと德と  
樹又惡と除るハ本根よりめを絶つべし予今再  
衆士とやハ民乃讐言を殄殲せんあり迪と  
果毅ハ心をささめく汝が辟とつてく人を辟と登  
る予又考るがハ軍功ハ厚く恩賞と行

嗚呼惟我文考日  
月之照臨光于  
若一四方于光  
西土于顯く惟  
我有周誕多  
と受

嗚呼惟我文考  
○鳴呼惟我文考  
若日月之照臨光于四方顯于西土  
惟我有周誕受多方  
徳ハ日月の四方と照  
臨するも周ハ周服ハつて周ハ引受  
くも周ハ周服ハつて周ハ引受

予受克予武  
罪無受予克  
朕文考罪有  
非惟予小子良  
無かり

○予克受非予武惟朕文考無罪  
受克予非朕文考有罪惟予小子無  
良  
殷王惡逆とて天下の諸侯民乃爲  
より予武威ありて天下の諸侯民乃爲  
が文考乃隱徳るも身又罪なり天より幸福  
をたまふるの罪ハ紂王克るも  
予がらびえ朕文考の不徳ありるも罪ハ



牧誓

良しむと惟まらざる予ん

牧誓

牧を地の名に殷乃都の朝歌汝南之

時の誓のこ

時甲子昧爽王朝  
商郊牧野于至  
乃誓王左  
黃鉞と杖右白  
旄と秉て以て麾  
之曰逖矣西土  
之人

王の曰嗟我友邦  
冢君御事司徒司  
馬司空亞旅師氏

千夫の長百夫の  
長及び庸蜀羌髡  
微盧彭濮の人

爾が戈と稱よ爾  
が干を比爾が矛  
と立予其誓はん

王の曰く古人言  
有曰く牝雞晨す  
不無牝雞之晨す  
不惟家之索今商  
王受惟婦言是用

經典餘帀

書經卷之四

十一

時甲子昧爽王朝至于商郊牧野乃

誓王左杖黃鉞右秉白旄以麾曰逖

矣西土之人

王の曰嗟我友邦

冢君御事司徒司馬司空亞旅師氏

千夫の長百夫の長及び庸蜀羌髡

微盧彭濮の人

爾が戈と稱よ爾が干を比爾が矛と立予其誓はん

王の曰く古人言有曰く牝雞晨す不無牝雞之晨す不惟家之索今商王受惟婦言是用

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

牝雞之晨惟家之索今商王受惟婦

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺

-1 326 38 884" data-label="Text">

言是用昏棄厥肆祀弗咎昏棄厥遺



厥肆祀也昏棄  
 父母弗厥遺王父母  
 勞昏棄也迪  
 乃乃乃乃乃乃  
 方之多罪通逃是  
 崇比是是長  
 是是信是是  
 使是是是是是  
 卿士是是是是  
 暴虐是是是是  
 邑于茲究世俾

今予發惟恭天  
 之罰之行今日之  
 事六步七步于愆

不乃乃乃乃乃  
 夫子昂哉四伐五  
 伐六伐七伐于愆  
 不乃乃乃乃乃  
 昂哉夫子尚  
 桓桓如虎如貔  
 如貔如熊如如  
 如熊如高郊于  
 世

王父母弟不迪乃惟四方之多罪通  
 逃是崇是長是信是使是以爲大夫  
 卿士俾暴虐于百姓以茲究于高邑

天之罰今日之事不愆于六步七步  
 乃止齊焉夫子昂哉不愆于四伐五  
 伐六伐七伐乃止齊焉昂哉夫子尚  
 桓桓如虎如貔如熊如羆于高郊

乃止齊焉夫子昂哉不愆于四伐五  
 伐六伐七伐乃止齊焉昂哉夫子尚  
 桓桓如虎如貔如熊如羆于高郊



克奔と逐以て西  
土は彼世弗勗哉  
夫子爾勗弗所其  
爾躬于戮有

○弗逐克奔以役西土勗哉夫子爾  
所弗勗其于爾躬有戮  
敵逆とふし  
我敵とてそのをうらとふべし  
奔みゆるも  
うらと逐てうらとてうらとて  
但し六の土  
時を悪事とす  
就中今日の号令けんち  
再夫子のひとぐり  
軍令乃どく  
最ふこととつるバヤの躬におつる嚴戮をふどく

武成  
名と以高の克の後文たり

武成  
惟一月壬辰旁死  
魄越翼日癸巳

惟一月壬辰旁死魄越翼日癸巳王

王朝又周自歩て  
于て高と征伐す

朝歩自周于征伐高

一月を今乃正月の  
古注し周の正月の

厥四月哉生明王  
商自來て豊于至

四月哉生明王來自商至于豊乃偃

乃ち武と偃文と  
修め馬と華山之  
陽于歸牛と桃林

武修文歸馬于華山之陽放牛于桃

之野于放ち天下  
服せ弗と示

林之野示天下弗服

丁未周廟于祀る

○丁未祀于周廟邦甸侯衛駿



邦甸侯衛駿奔走  
して豆籩と執越  
二日庚戌柴望  
して大武成を  
告既生魄度邦の  
冢君暨百工命と  
周于受

王若曰く嗚呼群  
后惟先王邦と建  
土と啓公劉克前

烈と篤す太王于  
至て肇て王迹と  
基す王季其王家  
勤我文考文王  
克厥勲と成誕  
天命と膺以て方  
夏と撫大邦其  
カと畏小邦其  
徳と懐惟九年大  
統未集予小子其  
厥志と承

奔走執豆籩越三日庚戌柴望大告

武成既生魄度邦冢君暨百工受命

于周四月丁未乃十九日周の祖廟を祀り天下

の供奠器たり木を造ふと豆とつひ竹とて

山川と望る天神地祇へ武成の功を告げてまつる

なり三月十七日己未

王若曰嗚呼群后

惟先王建邦啓土公劉克篤前烈至

于太王肇基王迹王季其勤王家我

文考文王克成厥勲誕膺天命以撫

方夏大邦畏其力小邦懷其德惟九

丰大統未集予小子其承厥志

の群后謂く嗚呼群后先王后稷の時

堯舜乃命と奉る土地と啓る邦國の都と建て諸

侯と封ぬると又曾孫公劉の時を民乃爲る農業

の勲を成就する天は命たり時節膺て方

夏の民と撫やさん万民も文王の徳より帰服せり











爵と列るは惟五  
土と分と惟三官  
と建と惟賢位事  
惟能民の五教と  
重す惟食喪祭信  
と悖と義と明と  
徳と崇む功  
報と垂拱而天  
下治る

のち武王心し思ひくハ聖人湯王乃建くハ商乃  
政務ハ極む善と決断らるる民の治法も由舊よ  
之ハ賢人箕子囚人たりと殺せし朝鮮の国  
王封とと紂をいさむる害死し比干が墓と封  
ととひひととより商容ととふ賢人乃住ふ間り  
たづねぬと式礼らる道とといふハ鹿基乃府を  
却きまき財宝と万民散るハ鉅橋の倉と奔る  
粟と出し民とふざり四海の万姓大に資と得て  
悦服

○列爵惟五分土惟三建官惟  
賢位事惟能重民五教惟食喪祭悖  
信明義崇徳報功垂拱而天下治

法ハ諸侯の列爵を公一位候一位伯一位子一位男一  
位との五乃位とらる封国土地を公と候とい百里四  
がかり伯ハ七十里なり子と男とい五十里以上三品  
とさむ賢者とあるとして官たりとてハ藝能あるものと

惟十有三祀王箕  
子于訪王乃ハ  
言て曰嗚呼箕子  
惟天陰より下民  
と隣て厥居と相

位ハそのハ五の教と父子君臣夫婦兄弟長幼を  
この道民の重むとあり食物をけむハ民生育る  
喪中乃礼なけむ人ハ先祖を祀り冥加をり祭と  
つとふけむハ神明の処とらるる信の心ハ  
悖やうハ徳らる人と崇む身の務の功らるる報  
あむとらるる君と人ハあむとらるる  
あむハ九重乃内り手と垂拱と  
天下大平と治まるとさる

洪範

洪範

洪範とい天地の洪な法と説のい  
範ハ法なりむハ洛水の流り神  
龜いせりその背甲よこの九乃疇と  
らるる天の道と示らるると

惟十有三祀王箕  
子于訪王乃ハ  
言て曰嗚呼箕子  
惟天陰より下民  
と隣て厥居と相

惟十有三祀王訪于箕子王乃言曰  
嗚呼箕子惟天陰隣下民相協厥居  
我不知其彝倫攸叙

十三年殷己未亡その  
天下周り定まると



協我其彝倫の叙る攸と知不

箕子乃のち言て曰く我聞在昔鯀洪水と理其五行

陳るるに汨汨帝乃のち震怒して洪範九疇と界不彝倫の敷攸鯀則りら殛死す禹乃ら嗣興天乃ち禹と洪範九疇と

錫彝倫の叙す攸

初の一日曰五行次の二曰敬五事と用也次の三日曰農するん八政と用也次の四日曰協五紀と用也次の五日曰建皇極と用也次の六日曰又三徳と用也次の七日曰明さすふも稽疑と用

經典餘師

書經卷之四

十一

後武王天地の大治と箕子と訪問たまふその言は曰く嗚呼箕子共々思ふ天神高き有り在りや蒼々冥々中々陰々下界万民敷くはく卑となく吉凶禍福乃因縁おのつる豫定ありて人間のそと居やうに相協とおめりたるれどもそもの天乃道人間の倫理いなり彝常たりといふこと悟るなりその叙るなり

○箕子乃のち言て曰く我聞在昔鯀理洪水汨汨陳其五行帝乃震怒不界洪範九疇彝倫攸敷鯀則殛死禹乃嗣興天乃錫禹洪範九疇彝倫攸叙命とくけく洪水と治くく水のとらす震怒とがらみ洪範九疇の室と界人の冥

加彝の倫理敷く鯀の身とらるは殛死ぬとの子禹王の聖人の徳まはしめし陰陽和合天の冥加よりあひりて天より洪範九疇と錫る人間乃倫とくその叙彝く天下大平乃瑞なり

初一日曰五行次二曰敬用五事次三曰農用八政次四曰協用五紀次五曰建用皇極次六曰又用三徳次七曰明用稽疑次八曰念用庶徵次九曰嚮用五福威用六極

書經卷之四

十一

經典餘師



次の八は日念の  
度微と用也次の  
九は日嚮は五福  
と用也威すは六  
極と用也

一は五行一は日  
水二は日火三は  
日木四は日金五  
は日土水と潤下  
と日火と炎上と  
木と曲直と日金  
と從革と日土と  
爰は稼穡す潤下  
と鹹きと作炎上

○第一と五事と一は次は詳悉なり第三のハの政務  
と農原の用也と第四は月日星年數季節の五  
の紀と世の言と一は膠りり也第五は皇王の徳の極  
と建用。六番は上り立ち三の徳乃は活用の一  
つ。七番は事乃疑惑統言留と明ひり用也。  
八番は陰陽過不及し多度吉凶の徴と一は九  
番は五の福あり人乃勸嚮り用也又凶極至六  
条は威をきき戒め慎むり用也以上各条目  
乃細なること  
後乃段より

一五行。一曰水。二曰火。

三曰木。四曰金。五曰土。水曰潤下。火

曰炎上。木曰曲直。金曰從革。土爰稼

穡。潤下作鹹。炎上作苦。曲直作酸。從

革作辛。稼穡作甘。

五行の數は一つと二と三と四と五と六と七と八と九と十と  
天一番は水と生と地二

若と作曲直と  
酸と作從革と  
辛と作稼穡ハ  
甘と作

二は五事一は日  
貌二は日言三は  
日視四は日聽五

○第一と五事と一は次は詳悉なり第三のハの政務  
と農原の用也と第四は月日星年數季節の五  
の紀と世の言と一は膠りり也第五は皇王の徳の極  
と建用。六番は上り立ち三の徳乃は活用の一  
つ。七番は事乃疑惑統言留と明ひり用也。  
八番は陰陽過不及し多度吉凶の徴と一は九  
番は五の福あり人乃勸嚮り用也又凶極至六  
条は威をきき戒め慎むり用也以上各条目  
乃細なること  
後乃段より

二五事。一曰貌。二曰言。三曰視。四曰聽。五曰思。











彼德と曰汝則ち之福ひと錫時人斯其惟皇之極たり

無而高明と畏

家と御あふの君と人と用ると蒙るとは徳はつもの引拳りふこといつとをさうく悪人と悪といふをさうくすさうと要とに皇善と好むは民人さ悪とに中しむと州乃風了靡かすことと庶民とさる事と猷くふことと性實あり又さ手よりけて為る管かこと次りのり又心り守る外へつこと人くひあふのあり君さるもの念くその人物とよりたりみらびくをさるもの人極も不恨さる答ふと羅らさるもの中段乃人さる上も下もたり立なるとのの上り立器量大の右の人々と胸中よ受容さるものとよとよと人さる徳和ふの色あふ人皆さるものと見る予好むことと徳賞羨し官禄を錫る一惟を皇王乃極福と佐つとまらるるべし

○無虐竝獨而畏高明

人之能有為こと有其行と羞使而邦其昌たり凡と厥正人既富方穀汝弗能使有乃家于好と有使

○人之有能有為使羞其行而邦其昌凡厥正人既富方穀汝弗能使有好于而家時人斯其辜于其無好德汝雖錫之福其作汝用咎

の疑ぐひとけく辜と陷とありの徳と好むことと無人と見らやさる福と錫えらる



偏無陂無王之義  
遵好作有  
無王之道遵  
惡作有無  
王之路遵偏無  
黨無王道蕩々黨  
無偏魚王道平々  
及無側無王道正  
直其有極會  
其有極歸

○無偏無陂遵王之義  
○無有作好遵王之道無有作惡遵王  
之路無偏無黨王道蕩蕩無黨無偏  
王道平平無及無側王道正直會其  
有極歸其有極  
○此の十四句の詩の風雅乃  
體なり風雅を人乃吟咏  
和らうと邪歪の思ふせり正清りおのひくこと  
詩の徳なりとつとつと心乃偏倚陂とかけまを  
自然と皇王乃極中法り歸とつたりつと  
好ると作又悪と作といふ心乃私己乃心とつと  
なり徒黨とつと又と世乃風俗とつと及と偏側なる  
私己の心乃外へあつたり皇王の御徳の極ハ  
義とつとつと御仁乃路蕩々ほどこつとつと何

曰皇極之敷言  
是彝是訓帝  
于其訓

凡厥庶民極之敷  
言是訓是行  
以て天子之光  
近曰天子  
民の父母作以て  
天下の王爲

六三德一曰

經曲餘師

書經卷之四

○曰皇極  
有極會たり蕩々平々とつと  
皇の立り有極り歸服とつと  
之敷言是彝是訓于帝其訓  
然の皇極なる訓をくり敷あめつとつと人  
間乃彝よまりおこつとつとへき道理なりこと天子  
訓と君の職とつと  
○凡厥庶民極之  
敷言是訓是行以て近天子之光曰天  
子作民父母以て天下王  
○此の敷言は天子の訓なり天子の御徳の極ハ  
子御つとつとつと天子の御徳の極ハ  
も執慮しんんん民の父母と  
なりつとつと天下の王とつと  
○六三德一曰正

終典餘師







七稽疑擇建下筮人  
ト筮の人と建立  
して乃ちト筮と命

曰く雨曰く霽  
曰く蒙曰く驛曰  
克曰く貞曰く  
悔

大夫身を九バツの家つひりて苗害を逢べし  
国乃君たりバツの国つひり凶事ありて滅亡を  
つひり官位つひり人々側頗僻乃心と生ト下の民  
人々身乃分限とすまそその稽疑式と上とま後ひ  
おどりりす

○七稽疑擇建下筮人

乃命ト筮  
ト筮乃官人を建立おまきく龍の

○曰雨曰霽曰蒙曰驛

曰克曰貞曰悔  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と

トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
つひりトトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と  
トトトの兆と火をり蒙と水と水と火と霽晴と

○凡七ト五占用二衍忒立時人

作ト筮三人占則從二人之言

トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ

○汝則有大疑謀及乃心謀及

卿士謀及庶人謀及ト筮

トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ  
トトトの内トトトの兩霽蒙驛克の五と占するその用ひ







備ハつて各其叙  
と以てとれバ  
草蕃廡一も極  
多ク備ハつて凶  
一も極まり無  
バ凶

曰休徵曰肅  
ハ時雨若クハ曰  
又ハ時暘若  
曰哲若  
時燠若  
曰聖若

風若クハ曰咎徵  
曰狂若  
恒暘若  
豫若  
恒燠若  
恒寒若  
恒風若

時五者來備各以其叙  
極備凶一極無凶  
乃徳とつて五の  
穀をそぐめ度乃草木蕃廡  
暘ハ火あり寒ハ金あり風ハ土あり燠ハ春ニ屬  
木あり暑あり五ノ行乃倣  
来とつて吉あり備り極  
無少も凶

○曰休徵曰肅時雨若曰又  
時暘若曰哲時燠若曰謀時寒若曰  
聖時風若曰咎徵曰狂恒雨若曰僭  
恒暘若曰豫恒燠若曰急恒寒若曰

蒙恒風若  
但しこのれ  
五事乃おこ  
君の身より又修  
君下と哲め  
君事と謀ら  
君道通  
君の心  
君の身法  
君の心  
君の身法  
君の心  
君の身法

蒙恒風若  
但しこのれ  
五事乃おこ  
君の身より又修  
君下と哲め  
君事と謀ら  
君道通  
君の心  
君の身法  
君の心  
君の身法  
君の心  
君の身法







九五福一曰壽二曰富三曰康寧四曰攸好德五曰考終命

六極一曰凶短折二曰疾三曰憂四曰貧五曰惡六曰弱

九つとす箕の星の風と好む箕星と雨と好む月の行箕星乃分野に入

壽二曰富三曰康寧四曰攸好德五

曰考終命 人間は福分五つあり其一は壽命

六極 善とたのむ 善とたのむ 善とたのむ

一曰凶短折二曰疾三曰憂四曰貧

五曰惡六曰弱 凶といふは短折といふは疾死をいふ

第一は疾病三つは心づきの憂患はるなり四つは貧乏五つは惡醜とくき姿なり六つは身の弱なり

旅獒

惟克商逐通道于九夷八蠻于西旅厥罔訓于王

曰嗚呼明王德慎之四夷咸賓于遠邇有無

旅獒

西の旅国より獒といふ大犬と献上しこの時周の武王天下を知りて

惟克商逐通道于九夷八蠻西旅底

貢厥獒太保乃作旅獒用訓于王

高し亡が来朝とて天下統一統たり

武王と訓戒 曰嗚呼明王慎德四夷

咸賓無有遠邇畢獻方物惟服食器



畢く方物と献す  
惟服食器用

王乃いち徳之致  
異姓之邦于昭  
て厥服と替  
無宝玉と伯叔之  
國于分て時庸  
親と展す人物と  
易とら不惟徳其  
物

徳盛されば狎侮

どら不君子と狎  
侮と盡す小人  
心と盡す小人  
人と狎侮とれ  
以て其カと盡す  
と罔

耳目は役せし  
不ば百度惟負  
人と玩ゆとへ  
徳と喪ふ物と玩  
何と志ざしと  
喪ふ志道と以  
て寧言の道と以  
て接る

用。明王徳と慎とてその身正しく儉省とつ  
その國乃主乃来朝とて皆賓客の儀とらるる遠  
のさべのちかく方角の産物と貢り献す

衣服食味器用のやうなり耳目もつ  
華侈とて求むべからずなり  
王

乃昭徳之致于異姓之邦無替厥服

分寶玉于伯叔之國時庸展親人不

易物惟徳其物。徳の致とい四方の國より献す  
物なり王より方物と異

姓乃諸侯方昭示拜分その職と廢お  
こすぬやうに宝玉の伯叔乃諸侯が分賜り  
物と易りたるさむるの展とて凡て器  
徳は徳のあり

徳盛不狎侮狎侮君

子罔以盡人心狎侮小人罔以盡其

カ。凡そ人させん徳の盛たる身は礼義  
ふれつて物を狎侮する君子は心の忠  
身たりと人とあはれり君子は人の心の忠  
と尽す又小人の心をたつて力を  
とておのが徳とていと次りの

不役耳目百度惟負玩人喪徳玩

物喪志志以道寧言以道接

色は耳目は役したのこれ声とこのむかひの  
心乃耳目は役してさげさば百々の度量と  
いふ負しうを人と玩弄して色情音曲  
いふくるとは身の徳とて喪ふ物のは  
人の志向り義理する道とむけざるは

人志向り義理する道とむけざるは











と以て某之身よ  
代よ

予仁よして考よ  
若くは能材多  
藝多能鬼神  
事乃ち元孫且  
材多藝多  
若くは鬼神事  
能

乃ち帝庭于命  
方と佑け用て能  
再ち子孫と下地

于定む四方之民  
祗と畏不と罔鳴  
呼天之降せる寶  
命と墜すと無と  
我先王も亦永  
依歸有

今我即て元龜于  
命す再之我よ許  
我其璧と珪  
與と以て歸て再  
の命と俟ん再ち  
我よ許さ不我乃  
は璧と珪與と

とちんく曰や三王の神靈よくきこしめし今  
爾の元孫たる武王の疾とくし厲虐しといはれり  
り不子武王乃責と天より任トめしとくし望  
らく且が身と王の代々く王とバと乃世の  
の民と安堵せしめ周の徳と施さ  
予仁

若考能多材多藝能事鬼神乃元孫  
不若且多材多藝不能事鬼神

乃命于帝庭敷佑四方用能定爾子  
孫于下地四方之民罔不祗畏嗚呼

無墜天之降寶命我先王亦永有依

歸。武王のたし上帝の庭し命せしめ四方の民と佑  
て天乃めぐる民敷かどう再ち三王の子孫  
の吾武王成王康王子孫たりいささか

今我即命于元龜爾之許

我我其以璧與珪歸俟爾命爾不許

我我乃屏璧與珪

命と俟りのたりり祈許よしと示し  
り安堵し王の病乃愈と俟のめり許よし



屏めん

乃ハ三龜ト

す一ヲ習ヒて吉クなる

至リ筮ト啓ヒて書ス

と見ル乃ハ乃ハ并ニ

て是レ吉クなり公曰

體ト王其害罔人レ

予小子新命予三王

王于命せらるて

惟永く是レ圖ト終ト

茲俟能予一人

と念ス

公歸て乃ハ乃ハ冊ヲ

と金滕之匱中于

納王翼日乃ハ乃ハ瘳ヲ

神ノ事ヲ三龜とト占て見るハ乃ハトス

三龜一習吉啓筮見書乃并是吉公

曰體王其罔害予小子新命予三王

惟永終是圖茲俟能念予一人

吉兆なり予乃代乃圖終予小子三王命予

乃疾予害乃予小子三王命予

と俟能予一人の念

公歸乃納冊于金

滕之匱中王翼日乃瘳

武王既喪管叔

及其群弟乃流言於國曰公將不利

於孺子

武王の弟を天子成王乃爲

天子孺子

周公乃告二公曰我之弗辟我

無以告我先王周公居東二年則罪

人斯得

周公の二人

黄泉乃下

先王の神靈



後于公乃以詩  
賜之曰王亦未  
敢言公之謂未

秋大熟未獲天大  
雷電以風  
大木斯拔邦人  
大恐王與夫  
夫與盡弁以  
以金滕之書  
啓以乃以周

公自以功  
爲武王代所  
說と得り

二公王及乃  
諸史と百執事  
問對て曰信  
王意公の命  
我敢て言と勿  
王書と執て以  
泣て曰其穆ト  
今天威と動  
以て周公之徳

○于後公乃爲詩以貽

王名之曰鷓鴣王亦未敢言公

秋大熟未獲天大雷電以風

夫盡弁以啓金滕之書乃得周公所

自以爲功代武王之說

二公及王乃問諸史與百執事對曰  
信噫公命我勿敢言

王執書以泣曰其勿穆ト昔

公勤勞王家惟予冲人弗及知今天

動威以彰周公之徳惟朕小子其新

逆我國家禮亦宜之



彰あきらかに次ついでに惟ただ朕わが小子こゝら其その新あらたうく迎むかへん我われ國家こくがの禮れい亦また之これ宜よろし

王わう郊けうと出いて天てん乃すなはち

雨あめ乃すなはち風かぜと反そむつ

禾こめ則すなはち盡つくる起たち

二ふた公こう邦ほう人にんの命いのち

凡たゞと大おほ木きの偃よす所ところ

盡つくる起たち而して之これと築たくふ

一ひと歳さい則すなはち大おほ

熟じゆくす

大誥

○王出  
君きみ子こと禮れい敬けいと宜よろし  
○大徳の  
天てんの動うごき威いをおそむべし  
天てんより周しゆう公こう乃すなはち

郊けう天てん乃すなはち雨あめ反そむつ風かぜ禾こめ則すなはち盡つくる起たち二ふた公こう命いのち邦ほう

人ひと凡たゞ大おほ木き所ところ偃よす盡つくる起たち而して之これと築たくふ之これ歳さい則すなはち大おほ

熟じゆくす王わう都と乃すなはち郊けう外がいまま出いて御ご事じ乃すなはち周しゆう公こうと

未いま起たち二ふた公こう乃すなはち邦ほう民みんの命いのち乃すなはち偃よす大おほ木きと起たち土つちと築たくふ本もとのこころ乃すなはち一ひと歳さい則すなはち大おほ熟じゆくす

大誥  
周しゆう公こう王わう命いのちとうけて君きみ父ちちの忠ちゆう孝かうとを教をす

詩の  
文乃体なり

王若曰猷大誥爾多邦越爾御事弗

弔天降割于我家不少延洪惟我幼

冲人嗣無疆大歷服弗造哲迪民康

矧曰其有能格知天命

王わうと多た邦ほう御ご事じ乃すなはち人ひとが

天てん下か多た邦ほう御ご事じ乃すなはち人ひとが

天てん位ゐと嗣し無な疆きやう大おほ歷れき天てん下かの重おもさ

康かう安あん乃すなはち格かく知ちの

己こゝろさんさんや予よ惟ただ小こ

己こゝろさんさんや予よ惟ただ小こ命いのちと格かく知ちす

命いのちと格かく知ちす

有あと曰いんんや

命いのちと格かく知ちす

-33 168 33 328" data-label="Text">

弗な知ちんんや其その能のう天てん

-33 328 33 883" data-label="Text">

命いのちと格かく知ちす

-73 168 33 328" data-label="Text">

有あと曰いんんや

-73 328 33 883" data-label="Text">

命いのちと格かく知ちす



予淵水と涉ぐ若  
予惟往て朕が  
濟らん彼を求む  
敷責めて前人の  
受命と敷て茲大  
功と忘る予敢て  
天の降せし威用  
于閉不

寧王我大寶龜  
と遺せり天の明  
と紹て即ち命  
と紹て即ち命  
と紹て即ち命  
大艱有西土の人

亦静く不茲  
越て蠢る

殷の小腆誕敢  
て其叙と紀す天  
威と降せども我  
國の疵有て民の  
康々不と知予  
復てんと曰て反  
て我周邦と鄙よ  
せんとす今蠢と  
り

今の翼日民獻十  
夫有予と翼以て

經典餘師

予惟小子。若涉淵水。予惟往求朕攸

濟。敷責敷前人受命。茲不忘大功。予

不敢閉于天降威用。

○寧王遺我大寶龜。紹天明。即

命曰。有大艱于西土。西土人亦不靜。

越茲蠢。

○殷小腆誕敢

紀其叙。天降威。知我國有疵。民不康

曰。予復反鄙我周邦。今蠢。

○今翼日。民獻有十。夫有予

予淵水と涉ぐ若  
予惟往て朕が  
濟らん彼を求む  
敷責めて前人の  
受命と敷て茲大  
功と忘る予敢て  
天の降せし威用  
于閉不  
寧王我大寶龜  
と遺せり天の明  
と紹て即ち命  
と紹て即ち命  
と紹て即ち命  
大艱有西土の人  
亦静く不茲  
越て蠢る  
殷の小腆誕敢  
て其叙と紀す天  
威と降せども我  
國の疵有て民の  
康々不と知予  
復てんと曰て反  
て我周邦と鄙よ  
せんとす今蠢と  
り  
今の翼日民獻十  
夫有予と翼以て



于て救寧して圖功と武我大事の休有い朕ト弁て吉なり

肆予我友邦の君越い尹氏庶士御事に告曰予吉トと得り予惟爾庶邦と以て于て殷の通播の臣と伐爾庶邦の君越い庶士御事反て不と罔曰艱

大なり民靜なら不亦惟王宮邦君の室は在越予小子考翼征す可うと不と王害とト違は不らん

肆予沖人永く艱と思て曰嗚呼允に蠢るる鰥寡哀哉予造は天役たり大なる身と遺艱と朕が身と投す越予

翼以于救寧武圖功我有大事休朕ト弁吉

肆予告我友邦君越尹氏庶士御事曰予得吉ト予惟以爾庶邦于伐殷通播臣爾庶邦君越庶士御事罔不反曰艱大民不靜亦惟在王官邦君室越予小子考翼不可征王

害不違ト

是邦君以下の官の注と前より出たり

予君このしむ吉事なりト白と得り予は予より庶衆と引つて殷乃臣下乃通播し悪人と伐と吉と次ありて庶官の人々幾内と出りてと不欲しとるるやうに殷より大なる艱とありて王宮邦君室よりくりつて三叔の征伐乃との越予小子考翼の人々一同に征伐乃時節よりしむとるるやうに先王龜ト示しるる害と神乃告り違はらんやと

肆予沖人永く思艱曰嗚呼允蠢鰥寡哀哉予造天役遺大投艱于朕身越予沖人不印自恤義爾邦君越爾多士尹氏御事綏予曰無怒于恤不







其前寧人圖功乃  
攸于終不  
天亦惟用我  
民勤慙  
疾有若予曷  
敢前寧人乃受  
彼の休于畢  
不

王の曰昔朕其逝  
とて若朕艱  
とて日思考  
室と作既法と  
底て厥子乃

昔て堂せ不が若  
矧や昔て構ん  
や厥父菑なりす  
厥子乃い昔て  
播弗矧や昔て獲  
んや厥考翼しめ  
其昔て予後有  
基と棄弗と曰や  
肆予曷と敢て  
印と越で寧王の  
大命と殺不んや  
若兄考乃いち友  
有て厥子と伐  
民養其勸て救  
弗んや

休畢 家ニ舊く人々前代乃と克遠省之  
但し乱のくづさし初たれば功と成の所なき  
寧王の圖事と極むて感と化誘たり天より  
我の友と邦の君との感と化誘たり天より  
十の賢人とたやひ又龜卜の休あり我と集忱た  
まの辞と我民の帰服と考さるも知ざり  
寧王乃圖功と終むるは疾ありがごとし  
國家の悪人けり民の爲り疾ありがごとし  
休養と畢さるごとし

王曰若昔朕其逝朕言艱日思若  
考作室既底法厥子乃弗昔堂矧昔  
構厥父菑厥子乃弗昔播矧昔獲厥

考翼其昔曰予有後弗棄其肆予曷  
敢不越印殺寧王大命  
遊といひも國家の難とのどくんと日思考と  
とてなるなりす法とつりゆと子の身とい  
りも堂基ととるさる況て構成といと  
べもおとを辟と父との田地とせ菑田とて  
んりとの子播種とせと況とや孰して獲取  
といひのいもより實と考翼我周の代の  
基と創といひ予悪人と誅伐い  
我基業と棄たむと曰や印い  
り寧王乃大命と殺存ざりや  
考乃有友伐厥子民養其勸弗救  
とて兄考とつりゆのりとの友朋とつりて子  
と攻伐りて養育る家民のりとの見とて救と



王の曰嗚呼肆哉爾庶邦の君越爾御事邦と爽らにする哲由亦惟十人上帝の命と迪知越ひ天忱と斐爾時と敢て法と易と罔矧や今天戾と周邦于降て惟大と人と艱しめ誕と鄰く厥室于胥伐爾も亦天命の易と不とと知不

王曰嗚呼肆哉爾庶邦の君越爾御事邦と爽らにする哲由亦惟十人上帝の命と迪知越ひ天忱と斐爾時と敢て法と易と罔矧や今天戾と周邦于降て惟大と人と艱しめ誕と鄰く厥室于胥伐爾も亦天命の易と不とと知不

○王曰嗚呼肆哉爾庶邦の君越爾御事邦と爽らにする哲由亦惟十人上帝の命と迪知越ひ天忱と斐爾時と敢て法と易と罔矧や今天戾と周邦于降て惟大と人と艱しめ誕と鄰く厥室于胥伐爾も亦天命の易と不とと知不

易 王曰嗚呼肆哉爾庶邦の君越爾御事邦と爽らにする哲由亦惟十人上帝の命と迪知越ひ天忱と斐爾時と敢て法と易と罔矧や今天戾と周邦于降て惟大と人と艱しめ誕と鄰く厥室于胥伐爾も亦天命の易と不とと知不

誕鄰胥伐于厥室爾亦不知天命不

易 王曰嗚呼肆哉爾庶邦の君越爾御事邦と爽らにする哲由亦惟十人上帝の命と迪知越ひ天忱と斐爾時と敢て法と易と罔矧や今天戾と周邦于降て惟大と人と艱しめ誕と鄰く厥室于胥伐爾も亦天命の易と不とと知不

予永く念て曰天惟殷と喪ひと穡夫の若し予曷と敢て朕と畝と終不んや天亦惟前寧人于休す

予曷と其極とトせん敢て于と從が弗んや寧人と率ふ疆土と指と有矧や今ト并て吉なるとや肆と朕誕と爾と以て東征す天命替不

予永く念て曰天惟殷と喪ひと穡夫の若し予曷と敢て朕と畝と終不んや天亦惟前寧人于休す

予曷と其極とトせん敢て于と從が弗んや寧人と率ふ疆土と指と有矧や今ト并て吉なるとや肆と朕誕と爾と以て東征す天命替不

○予永く念て曰天惟喪殷若穡夫予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧人疆土知今ト并吉肆朕誕以爾東征天命不替ト陳惟若茲

予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧人疆土知今ト并吉肆朕誕以爾東征天命不替ト陳惟若茲

予曷敢不終朕畝天亦惟休于前寧人疆土知今ト并吉肆朕誕以爾東征天命不替ト陳惟若茲

經傳

書經

卷之四



トの陳する惟茲  
乃若

微子之命

王若曰猷殷王元  
子惟古へと稽へ  
徳と崇い賢象  
先王の統承其  
禮物と修め王家  
于賓作國與咸  
休して永世窮無

とわりの況やトの吉なるや  
再等と引以て東国乃三叔と征伐とて之天乃  
命トの陳すること元より替りたる  
命トの陳する若茲とたり

微子之命

封命の宋の国とたかひて殷の後と  
嗣しめり天子より諸侯の誥命ト  
文例  
たり

王若曰猷殷王元子。惟稽古崇徳象  
賢統承先王修其禮物作賓于王家。  
與國咸休永世無窮。

○嗚呼乃祖成湯克齊聖廣淵皇天

眷佑誕受厥命撫民以寬除其邪虐

功加于時德垂後裔

爾惟踐修厥猷舊有令聞

恪慎克孝肅恭神人予嘉乃德曰篤

嗚呼乃祖成湯克  
齊聖廣淵皇天眷  
佑誕受厥命撫  
民以寬除其邪  
虐功加于時德  
垂後裔

爾惟厥猷と踐修  
舊有令聞有恪  
慎克孝と神人と



肅恭予乃の徳  
と喜す曰篤ふ  
て忘に上帝時歆  
下民祗に協庸  
て爾と上公于建  
て茲東夏と尹

欽哉我往て乃  
乃訓と敷て乃乃  
服命と慎と典常  
率由して以て  
王室よ蕃うれ乃  
の烈祖と弘い  
乃の有民よ律  
綏予一人と毗

不忘上帝時歆下民祗協庸建爾于  
上公尹茲東夏  
微子より湯王乃歆と踐修  
身よりおこすひとの命

聞ふと神明よ肅恭つる成王よと微子の徳と篤く  
嘉多しと忘れず上帝よとの祭祀と歆多し  
下民よと協庸と

夏の地よ封と國尹と諸侯の位  
上公といふ宋乃國なり  
欽哉

往敷乃訓慎乃服命率由典常以蕃  
王室弘乃烈祖律乃有民永綏厥位

毗予一人世世享徳萬邦作式俾我  
有周無斁

公の冠服その外格式乃定まりあり

て世々徳と享萬  
邦式と作て我有  
周として斁と無  
ら俾

嗚呼往哉惟休  
て朕が命と替と  
無と

康誥

惟三月哉生魄周  
公初て基して新

經傳餘師

○嗚呼往哉惟休無替朕命  
右誥  
命の

おりの政務乃養休とよと朕がこの命と替お  
こすこや  
まうれこや

康誥

康叔と衛の國の侯と封と武王乃  
命の文なり康叔と武王乃

惟三月哉生魄周公初基作新大邑

書經卷之四



大邑と東國の洛  
于作る四方の民  
大和會す侯甸  
男邦采衛百工民  
と播て和見周于  
士と周公咸く勤  
治と誥  
乃乃の洪大

王若曰く孟侯朕  
其弟小子封惟  
乃の丕と顯  
考文王克徳と明  
考罰と慎む

于東國洛四方民大和會侯甸男邦

采衛百工播民和見士于周周公咸

勤乃洪大誥治初發端の文

金滕乃前 惟歳の三月哉生魄ハ

十六日のそなり 周公新大邑と洛邑

とつとめり 四方乃民和會集

とつとめり 侯甸采衛のく

とつとめり 周の政務大小乃

王若曰孟

侯朕其弟小子封惟乃丕顯考文王

克明德慎罰この文より 康誥發端の詞なり

不の小子封 敢の康叔乃 敢の諸侯の孟

侮の王の 侮の考文王 侮の明德

我の我 我の我 我の我

時の時 時の時 時の時

王の王 王の王 王の王

時の時 時の時 時の時

土の土 土の土 土の土



乃の寡兒勗（西土の）肆は汝小子封茲東土（在）

王の曰嗚呼封汝念（念）ん哉今民將

考（考）と通て聞と紹

徳言と衣（衣）を

在（在）んと將往て殷

の先哲王と敷求

て用て民と保

又（又）汝丕遠（遠）

商の耆成人と推

心と宅訓と知別

又古の先哲王

聞由るを求て

用て民と康保

天子弘（弘）若徳乃

の身（身）と裕（裕）乃

王の曰嗚呼小子

封乃の身（身）と恫瘼

父母を志し其徳を以て徳上帝（徳上帝）に聞（聞）は

天帝休（天帝休）乃の命（命）を以て命（命）を叙（叙）は

評（評）たりし今汝と封（封）は

封汝念哉今民將在祗通乃文考紹

聞衣徳言往敷求于殷先哲王用保

又民汝丕遠惟商耆成人宅心知訓

別求聞由古先哲王用康保民弘于

天若徳裕乃身不廢在王命（王命）

王の曰嗚呼小

子封恫瘼乃身敬哉天畏棐忱民情

大可見小人難保往盡乃心無康好

逸豫乃其又民我聞曰怨不在大亦

不在小惠不惠懋不懋

民の安堵せざる

と一乃身（身）と恫乃康（康）は

なり民情（民情）は善悪見（見）たりや

と保（保）は

祭典

書

四三







若くす惟民其康ト入る

汝封人と刑人殺す非ず或人と刑人殺す無と汝封又曰く人無或剽則人非剽或人剽則するも無れ

王の曰く外事の汝時臬と陳して司として茲殷の罰倫有と師とせよ

時と民の心帰服とと勅懲と和合せしめたる人乃疾と去らざりて民の心あり悪とより去る民も咎と仕いばけさるる民ととてつる父母乃赤子とつる民康と入る赤子

○非汝封刑人殺人無或刑人殺人非汝封又曰剽則

人無或剽則人 又詔人罪たりと罪と討つてつるの刑殺又剽耶などいふべし又汝乃あるを以て殺刑又剽耶などいふべし

○王曰外事汝陳時臬

司師茲殷罰有倫 外朝の外の政務の事なり康叔の國乃衛とつる臬は法たり汝乃國とおさむる右の法とつるは成まるる殷の刑罰をれく乃輕

又曰く要囚ハ服念するも五六日旬時于至て丕要囚と蔽

○又曰要囚服念五

王の曰く汝時臬と事と陳して罪の蔽る殷彝其義刑義殺用いて庸て以て汝封よ次

六日至于旬時丕蔽要囚 考察とふよ

すふと勿と乃ら汝盡く遜とい時叙と曰とも惟未遜とい事有未曰

○王曰汝陳時臬事罪蔽殷彝用其義刑義殺勿庸以次汝封乃汝盡遜

已るんや汝惟小

○已汝惟

經典餘師

書經卷之四



子未其汝封之心  
若其有未朕心  
朕德惟乃知

凡と民自<sup>ら</sup>得<sup>て</sup>罪<sup>を</sup>寇攘<sup>を</sup>殺<sup>す</sup>越<sup>す</sup>  
と得<sup>て</sup>寇攘<sup>を</sup>殺<sup>す</sup>越<sup>す</sup>  
人<sup>を</sup>と貨<sup>を</sup>于<sup>て</sup>殺<sup>す</sup>越<sup>す</sup>  
啓<sup>して</sup>死<sup>を</sup>と畏<sup>ま</sup>不<sup>し</sup>  
懲<sup>り</sup>弗<sup>と</sup>罔

王の曰封元惡大  
懲矧や惟不孝不  
友子祗んで厥父

小子未其有若汝封之心朕心朕德  
惟乃知  
汝の若しその心は朕の心と善く、  
汝の若しその心は朕の心と善く、

凡民自得罪寇攘殺越  
人于貨啓不畏死罔弗懲  
能知<sup>る</sup>者<sup>多</sup>又<sup>別</sup>罪<sup>を</sup>と犯<sup>す</sup>寇攘<sup>を</sup>とつ<sup>て</sup>貨<sup>を</sup>財<sup>と</sup>むさ<sup>り</sup>人<sup>を</sup>と殺<sup>す</sup>越<sup>す</sup>或<sup>は</sup>傷<sup>つ</sup>け<sup>な</sup>い惡<sup>事</sup>一<sup>つ</sup>啓<sup>強</sup>く不<sup>畏</sup>死<sup>す</sup>と懲<sup>り</sup>さ<sup>ふ</sup>その心<sup>を</sup>此<sup>等</sup>乃<sup>は</sup>惡<sup>人</sup>と刑<sup>罰</sup>とんばた<sup>ま</sup>も

王曰封元惡大懲矧惟不孝不友  
子弗祗服厥父事大傷厥考心于父  
不服<sup>す</sup>此<sup>等</sup>乃<sup>は</sup>惡<sup>人</sup>と刑<sup>罰</sup>とんばた<sup>ま</sup>も  
不<sup>服</sup>此<sup>等</sup>乃<sup>は</sup>惡<sup>人</sup>と刑<sup>罰</sup>とんばた<sup>ま</sup>も

の事に服せ弗大  
厥考の心と傷  
父と于て厥子と  
字しむと能不<sup>し</sup>乃<sup>は</sup>  
于て天頭と念弗  
乃ら厥兄と恭ふ  
と克弗兄も亦子  
と鞠なるの哀と  
念弗大は弟于友  
さら不惟茲も弔  
我政人よ于て罪  
と得<sup>て</sup>不<sup>ん</sup>ば天<sup>惟</sup>  
我と與<sup>る</sup>民彝大  
と泯乱す曰く乃  
其速と文王乃

不能字厥子乃疾厥子于弟弗念天  
顯乃弗克恭厥兄兄亦不念鞠子哀  
大不友于弟惟弔茲不于我政人得  
罪天惟與我民彝大泯亂曰乃其速  
由文王作罰刑茲無赦  
王又封<sup>を</sup>詔<sup>す</sup>今<sup>は</sup>殷<sup>の</sup>代<sup>の</sup>末<sup>に</sup>

天下人倫乃道大  
中よりけしむ不<sup>し</sup>孝<sup>と</sup>友<sup>と</sup>弟<sup>の</sup>道<sup>を</sup>とら<sup>ず</sup>の尤<sup>も</sup>  
と傷<sup>ふ</sup>ら<sup>り</sup>父<sup>と</sup>子<sup>と</sup>字<sup>を</sup>育<sup>は</sup>す<sup>に</sup>父<sup>の</sup>事<sup>を</sup>と服<sup>は</sup>さ<sup>ず</sup>考<sup>の</sup>心<sup>を</sup>傷<sup>め</sup>  
とたり弟<sup>と</sup>兄<sup>と</sup>恭<sup>む</sup>敬<sup>む</sup>と<sup>も</sup>兄<sup>と</sup>弟<sup>と</sup>友<sup>に</sup>り<sup>て</sup>父<sup>母</sup>の  
子<sup>を</sup>鞠<sup>を</sup>哀<sup>を</sup>と<sup>も</sup>思<sup>は</sup>ふ<sup>に</sup>右<sup>の</sup>風<sup>俗</sup>乃<sup>は</sup>惡<sup>と</sup>茲<sup>を</sup>乃<sup>は</sup>弔<sup>す</sup>  
の政務とば<sup>す</sup>人<sup>の</sup>この罪<sup>を</sup>と正<sup>す</sup>と<sup>も</sup>た<sup>ま</sup>ふ<sup>に</sup>時<sup>を</sup>  
こ<sup>も</sup>天<sup>の</sup>乃<sup>は</sup>我<sup>と</sup>與<sup>る</sup>天下<sup>の</sup>民<sup>を</sup>を<sup>も</sup>泯<sup>ら</sup>ん<sup>と</sup>す<sup>に</sup>



罪と作よ由て茲  
と刑して赦と無  
率不ハ大曷す矧  
や惟外庶子の人  
と訓ふ惟厥正人  
越ハ小臣の諸の  
節ある乃ハ別  
に播敷民の大  
譽と造念弗庸弗  
厥君と懐む時乃  
ち悪と引惟朕慙  
む己んや汝乃ち  
其速やう茲義  
由て率いて殺せ  
亦惟君惟長厥家  
人越ハ厥小臣外

刑して赦  
天頭とい親子兄弟を天然に  
そのと頭明たうと代念  
○不率大曷矧惟  
外庶子訓人惟厥正人越小臣諸節  
乃別播敷造民大譽弗念弗庸厥厥  
君時乃引惡惟朕慙己汝乃其速由  
茲義率殺  
曷とい法たり国の大法は率從るもの  
訓は官たりあびる人と正し上るは人と小臣  
の職と節ひと別し私意を以て政事と敷造し  
身の言との公義と庸と念とて君了懐のハ  
惡心と下民と引といのたり朕も慙とおのハ  
この義を以て  
○亦惟君惟長不能厥家  
これと殺と

正と能て不惟威  
惟虐大又王命と  
放ち乃ち非徳用  
て又めん  
汝も亦典と敬す  
ふと克不と罔乃  
ち由て民と裕  
に惟文王之敬忌  
乃ち民と裕  
て曰く我惟及  
有則ち予一人以  
て憚らん  
王の曰く封奭  
民と惟て迪  
吉康とす我惟

人越厥小臣外正惟威惟虐大放王  
命乃非徳用又  
正と能て不惟威  
命放ちま非徳用又  
と治人と  
服せんや  
○汝亦罔不克敬典乃由裕  
民惟文王之敬忌乃裕民曰我惟有  
及則予一人以憚  
考文王乃敬忌  
朕り文王の作法  
の憚悦  
○王曰封奭惟民迪吉康  
我時其惟殷先哲王徳用康又民作



其殷之先哲王乃德之惟て用て民と康又するよ求きと作知んや今民迪ひく適不と周迪く不則ち政と厥邦在と罔

求矧今民罔迪不適不迪則罔政在  
 厥邦 王曰封予惟  
 不可不監告汝德之說于罰之行今  
 惟民不靜未戾厥心迪屢未同爽惟  
 天其罰殛我我其不怨惟厥罪無在  
 大亦無在多矧曰其尚顯聞于天  
 王曰封予惟

我と罰殛せん我其怨不惟其罪大其在無亦多き其在無知んや其高顯る天于聞と曰と

鳴呼封敬哉無作怨勿用非謀非彝  
 蔽時忱丕則敏德用康乃心顧乃德  
 遠乃猷裕乃以民寧不汝瑕殄  
 王曰鳴呼肆汝小子封惟

經曲餘師

書經卷四

四十八



寧く汝と瑕と  
一 殄不

王の曰嗚呼肆  
汝小子封惟命常

不才不汝念哉  
我享と殄と無乃

の服命と明は  
乃の聽と高く

用て民と康又せよ

王若曰く往哉封  
敬典と替と勿れ

朕が汝に告と聽  
乃ら殷の民と

以て世享ん

命不于常汝念哉無我殄享明乃服

命高乃聽用康又民

敬典聽朕告汝乃以殷民世享

王若曰往哉封勿替

酒誥

殷の紂王酒色を以て天下酒を以て

酒誥

殷の紂王酒色を以て天下酒を以て

王若曰明大命于妹邦乃穆考文王

肇國在西土厥誥愆庶邦庶士越少

正御事朝夕日記茲酒惟天降命肇

我民惟元祀

天降威我民用大亂喪德亦罔非

天降威我民用大亂喪德亦罔非

天降威我民用大亂喪德亦罔非

天降威我民用大亂喪德亦罔非







庶士有正越庶伯の君子其再  
典又朕が教と聴  
再大克者と羞  
惟君再乃ら飲食  
醉飽丕惟曰再  
克永く觀省作  
中徳と稽よ再  
尚く克饋祀と羞  
再乃ら自今  
て用逸せん茲  
乃ら允惟王乃  
正事之臣茲亦惟  
天元徳若く永  
く王家に在ると  
忘不

酒と用致し賀とさたり洗  
腆し洗とさりめく腆厚かりをわへ  
庶  
士有正越庶伯君子其爾典聽朕教  
爾大克羞者惟君爾乃飲食醉飽丕  
惟曰爾克末觀省作稽中徳爾尚克  
羞饋祀爾乃自今用逸茲乃允惟王  
正事之臣茲亦惟天若元徳末不忘  
在王家  
王又妹土の庶士有正越り庶伯  
君子に教を人惟り君に徳を  
年老徳乃ら人と羞を羞老の礼ら  
飲食醉飽のらと民に命とあめ  
觀省し正し  
作酒と用ゆらと定めらるる父母の慶心と致と

王の曰封我西土  
の棐祖の郡君  
御事小子尚く  
克文王の教と用  
て酒于腆う不  
故我今于至て  
克殷之命と受  
王の曰封我聞惟  
曰在昔殷の先哲  
王天顯と小民と  
畏るここと迪  
徳と經う哲と  
秉成湯自咸帝

時と養老し用らるる祖考と饋祀時と酒宴の逸  
とあふべし然るに王の政事し任とる臣下と酒宴の逸  
天よりその徳し若くは倚る長久  
王家に在ると忘らるる  
王曰  
封我西土棐祖邦君御事小子尚克  
用文王教不腆于酒故我至于今克  
受殷之命  
王又のたまは祖の時考文王の政事と  
棐祖の西土乃ら邦君并は御事  
の小子酒と不腆のゆへとまめらるるかゆへり今ま  
るまゝ殷乃ら天より命せらるる天下とる周の代り  
長久なり  
王曰封我聞惟曰在昔殷  
先哲王迪畏天顯小民經徳秉哲自  
成湯咸至于帝し成王畏相惟御事



于至て王と成相  
と畏惟御事厥恭  
恭有敢て自暇自  
逸せ不矧人や其  
敢て飲と崇ぶと  
曰んや

越い外服に在侯  
甸男衛邦伯越い  
内服に在百僚庶  
尹惟亞惟服宗工  
越い百姓里居敢  
て酒于酒と罔惟  
敢てせ不のこふ  
ら不亦暇あふ不  
惟王の徳と助成

願うに尹人  
と越まを辟と祗  
我聞亦惟曰く今  
に在て後嗣王身  
と耐て厥命民  
于頭らなふと罔  
祗し之保とん  
怨も越て易不誠  
い惟厥縦まて  
非彝于淫泆す燕  
ずと用て威儀と  
喪ふ民心と盡傷  
せ不と罔惟荒と  
酒于腆して乃の  
逸と自息すこと

厥恭有恭不敢自暇自逸矧曰其敢  
崇飲 我々先王迪行とて天命と畏く小民の  
保つたんと頭めし湯王より帝乃代まぐり賢  
乃訓めと兼まぐり王より帝乃代まぐり賢  
君六七人出ろひし王より帝乃代まぐり賢  
相忠臣乃言と畏敬りし御吏乃人々も王と  
相忠臣乃言と畏敬りし御吏乃人々も王と  
相忠臣乃言と畏敬りし御吏乃人々も王と

越在外服侯甸男衛邦  
伯越在內服百僚庶尹惟亞惟服宗  
工越百姓里居罔敢酒于酒不惟不  
敢亦不暇惟助成王徳顯越尹人祗

辟 外服に侯甸男衛邦伯たるは内服の百  
僚人庶尹亞服の宗工とてより里居百姓は  
務と安暇りのたぐり王の徳と助頭成る尹の人々  
國家の辟と恭に  
○我聞亦惟曰く今後  
嗣王耐身厥命罔顯于民祗保越怨  
不易誕惟厥縦淫泆于非彝用燕喪  
威儀民罔不盡傷心惟荒腆于酒不  
惟自息乃逸厥心疾狠不克畏死辜  
在高邑越殷國滅無罹弗惟徳馨香  
祀登聞于天誕惟民怨庶羣自酒腥



惟不厭心疾狼... 不辜高邑在殷... 國滅... 惟德... 馨香... 天子聞弗誕... 民怨... 自天墜... 故天墜... 降殷于愛... 罔惟逸之天... 非惟民自... 辜... 王曰... 茲の若多誥不古

聞在上故天降喪于殷罔愛于殷惟  
逸天非虐惟民自速辜  
○王曰封予不惟  
若茲多誥古人有言曰人無於水監

人言有曰人水... 於於監... 當今惟殷厥命... 予惟曰汝劼... 殷の獻臣侯甸男... 衛と... 太史の友... 史の友... 獻臣百宗工知... 惟爾の事... 服采知んや... 疇圻父の違

當於民監今惟殷墜厥命我其可不  
大監撫于時  
予惟曰汝劼愆殷獻臣侯甸男衛矧  
太史友內史友越獻臣百宗工矧惟  
爾事服休服采矧惟若疇圻父薄違  
農父若保宏父定辟矧汝剛制于酒



薄農父の若くは保する宏父の辟と定る矧や汝剛酒干制とるとや

厥或ハ誥テ曰ク群飲汝失なすと勿盡く執拘して以て周予歸と予其殺さん又惟殷之迪諸臣惟工乃ち酒

于酒庸殺之姑惟教之殺勿姑惟之教よ斯と有せば明享せん乃ち我教辭と用いんば惟我一人恤弗乃の事と獨とくせ弗の時殺于同くせん王の曰く封汝典乃の司と辯むと勿ハ民酒于酒

人々を認べしと矧くや周乃典則と執司大史以下乃人々を尤も剛との命条守るべきとて獻臣とを賢臣なり大史大史の官と典則とつとる友といふ事とて賢徳あり百の宗乃工官なり服休ハ坐しとて服采ハ起く更とてうひ道と論ずる令とて上乃命り遷りものと薄逐しものとて農父を教と司り万民と若保とて宏父と民の居と司矧や汝乃身と一國の視とて酒とて剛

○厥或誥曰群飲汝勿佚

○盡執拘以歸于周予其殺

○又惟殷之迪諸臣

惟工乃酒于酒勿庸殺之姑惟教之又惡し迪引と諸臣と一且と浮氣とて人々とて一め教とて

○有斯明享乃不用我教

辭惟我一人弗恤弗獨乃事時同于

殺今我命とて斯教と用ふと有汝等と引享て

○王曰封

汝典聽朕恣勿辯乃司民酒于酒

○朕が恣慎とてまべり酒とて



梓材

梓材

天下の政務を執るるに材木を持らば

王の曰く封厥庶民暨厥臣以て大家を達し厥臣を以て王を達す惟邦君

王曰封以厥庶民暨厥臣達大家以厥臣達王惟邦君庶民小臣の万民と大夫の家を達すは下民の情上へ通す達するは天子の教と民を示しやどことと上上の情下へ達するは民よりさび服し惟邦君の道なり邦君を上り天子あり下は大家より中央ありあり上下の情を通じとく

汝若恒越曰我師師とす司徒司馬司空尹旅有曰く予人と厲殺すこと罔亦厥

汝若恒越曰我有師師司徒司馬司空尹旅曰予罔厲殺人亦厥君先敬勞肆但厥敬勞肆但姦宄殺人歴

君先敬勞す肆但て厥敬勞す肆但て姦宄人と殺歴人と宥す肆に亦厥君の事と見て人と戕敗す不宥と

人宥肆亦見厥君事戕敗人宥汝若恒越の義たり司徒司馬を前するは尹と旅の大夫なり罪を厲す詩よつとふ之と勞を敬むるは姦宄を殺すことと人殺すことと宥すことと

王監と啓と厥亂むる民の爲なり曰く昏戕と無昏虐すふと無寡と敬する于至婦と屬する于至合由以て容王其郡君

王啓監厥亂爲民曰無昏戕無昏虐至于敬寡至于屬婦合由以容王其效邦君越御事厥命曷以引養引恬自古王若茲



越い御事と效と  
ハ厥命曷と以て  
引古(自王)茲の君  
監とて辟する  
攸罔

監罔攸辟

康叔の國乃監官とく終り  
監の官と啓とくつと民の爲と

惟曰く田と稽ひ  
既又勤て敷苗を  
若一室家と作が  
既又勤て垣墉  
惟其塗墍して

○惟曰若稽田既勤敷苗  
若一室家既勤  
垣墉惟其塗墍  
若作室家既勤  
惟其陳修爲厥疆畎若作室家既勤

今王惟曰く先王  
既く勤て明德と  
用て懐て夾と爲  
夷邦享て兄弟  
作て方來一亦既  
明德と用ゆ后  
典と式て集ぐれ  
バ夷邦丕享

○今王惟曰先王既勤用明德  
夷邦享作兄弟方來亦既用明德  
后式典集夷邦丕享  
皇天既付中國民越  
厥疆土于先王肆王惟德用和擇先  
後迷民用擇先王受命

皇天既又中國の  
民越い厥疆土と  
先王于付す肆王  
惟德用い迷民と  
和擇先後して用  
て先王命と受た  
ると擇ぶ

皇天既付中國民越  
厥疆土于先王肆王惟德用和擇先  
後迷民用擇先王受命  
先王受命と受たると擇ぶ  
皇天既付中國民越  
夷邦丕享



己茲の若く監せ  
よ惟曰く萬年于  
至て惟王く  
と欲す子子孫孫  
永く民と保せん

怡懼しめ  
まつりたまふ  
○己若茲監惟曰欲至  
于萬年惟王子子孫孫永保民  
若の茲天子万年と保んと欲するのなり

書經卷之四終

書經卷之四終



